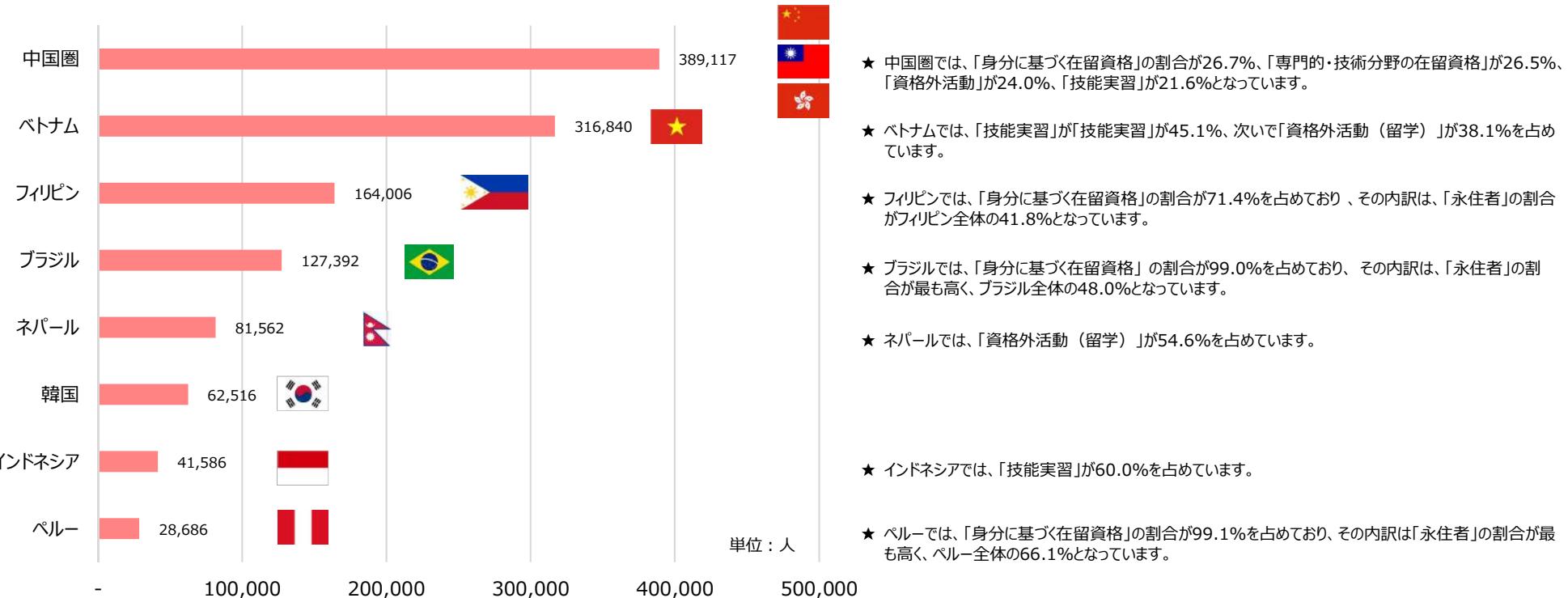




国籍別外国人労働者

2018年10月末現在の外国人労働者を国籍別にみると、中国圏が最も多く389,117人で、次いで、ベトナムが316,840人となっています。特に、ベトナムについては、前年同期比で76,581人（31.9%）と大きく増加しています。

【国籍別労働者（2018年）上位国】



出典：厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況まとめに基づく集計（平成30年10月末現在）



【簡単解説】

- 国籍別にみると中国圏が最も多く389,117人で、外国人労働者数 全体の26.6%を占めています。次いで、ベトナムが316,840人（同 21.7%）、フィリピンが164,006人（同 11.2%）の順となっています。特に、ベトナムについては、前年同期比で76,581人（31.9%）と大きく増加し、また、インドネシアについては同7,427人（21.7%）増、ネパールについては同12,451人（18.0%）増となっています。